

長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金報告書

2023年10月21日

国際経営学部国際経営学科4年

佐田愛未

はじめに

私は2022年9月から2023年4月までの8か月間カナダのウィニペグ大学に交換留学生として派遣されました。この留学報告書では、学習面と生活面に分けて私の留学先での様子を書き記していきます。また、この留学に当たってコロナウイルス感染拡大のなか支援をくださったすべての方に感謝いたします。

留学にあたって

私は幼少期から海外に強い憧れがあり、高校生の頃は部活動が忙しく海外挑戦ができなかったため大学に入学したら留学をしたいという思いを持っていました。しかし、大学入試直後に新型コロナウイルスが蔓延し、学部カリキュラムのグローバルスタディーズさえも中止になってしまいました。この時から学生時代に海外留学は無理だと思い諦めていた自分がいました。正直、大学生のうちに海外への扉が開かれ、コロナウイルスに対抗するワクチンができ、留学に行くことができるとは思ってもいなかったので一年間の留学を無事に終え、こうして報告書を作成できていることに感謝しています。

私がこの長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金に応募した理由は海

外に留学やインターンシップに行く代表としての自覚が芽生えると考えたからです。私は小さいころから英語を学習していて英語に対する苦手意識はありませんでしたが、日本に住んでいると学校以外に英語を使う機会はありませんでした。また、海外から客観的に日本をみることで日本の良いところと改善した方が良いところ両方を見ることが出来ると考えていたので留学に行くことを決心しました。

候補としては私の中では北米しかありませんでした。昔からずっと憧れていたアメリカへの渡航を希望していましたが、銃社会であることと当時人種差別が行われていたこともあり、今まで行ったことのないカナダに決めました。英語力の向上はもちろん、多種多様なバックグラウンドをもつ人との関わりや海外の文化を学ぶことを目標とし一年間、ウィニペグ大学に留学をしました。

学習について

カナダのマニトバ州にあるウィニペグ大学は1967年に設立された公立大学です。大学内には the University of Winnipeg Collegiate と呼ばれる高等学校と English Language Program という語学学校が併設されています。大学のシンボルであるお城のような校舎は Wesley Hall と呼ばれ今では国の歴史的建造物になっています。



←大学の様子（冬場）

私は9月から12月までの秋学期間 English Language Program で学びました。朝の8時半から12時まで Writing と Reading の授業を受け、午後はビジネスの授業を受ける生活を月曜日から金曜日まで毎日送っていました。私は Academic 5 と呼ばれる ELP の中では一番上のクラスに所属していました。そこには英語を第一言語としない、カナダ国籍ではない人が集まっていたので英語力だけでなく様々な価値観や考え方、文化を学ぶことができました。加えて、15名から20名程度の少人数のクラスでグループワークやプレゼンテーションがあったので積極性やコミュニケーション能力の向上につながったと思います。学期の最後にはリサーチペーパーを書く必要があったので、再度英語でのレポートの書き方を復習できましたし、忙しい中で完成度をあげて仕上げるという作業が楽しかったです。

午後のビジネスのクラスは日本で受ける講義と変わらないスタイルでしたが、試験が3回あり、放課後は友達と夜遅くまで学校で勉強していたのを覚えています。こちらも1年生の時に履修した経営学入門の復習になったので経営学を学ぶ私にとってはプラスになった時間でした。この授業ではカナダの企業を例に取り上げながら授業が進んでいったので日

本で習ったこと比較しながら受けることができました。

後期からは現地の大学生と学部授業を受けていました。私は Supply Chain Management、Consumer Behavior、Human Resource Management の3つの授業を履修していたので週に3、4回程度登校していました。どの授業でもグループワークやプレゼンテーションがあり、前期の経験がとても生かされたと感じます。基本的には週に2回ずつ各授業があり、1時間15分という日本に比べて短いですが、濃密な内容で授業が進んでいきます。前期とは違い、現地の学生が対象の授業なので英語が早く常にノートを取りながら授業を受けていました。特にクラスワークやプレゼンテーションの期待値が高く人一倍予習や、下調べをするようにしていました。また、普段からその日のうちに教科書やパワーポイント、自分のノートを読み返し、試験前に焦ることのないように努力していました。Human Resource Management では合計3回のインクラスアクティビティがあり、それは先生がランダムに生徒を選びグループにして、人的資源に関する課題に取り組むというものでした。北米では特にクラスでの積極的な発言が求められるので間違えることを恐れず、意見を言うようにしました。この授業では発表やプレゼンテーションはありませんでしたが、小さなグループ内でも自分が思ったことを相手に敬意をもって伝えることで信頼を得られるようになり、回数を重ねるにつれて1番頼ってもらえるようになりました。またこの経験は自分に自信が持てるようになったきっかけの出来事でもあります。Supply Chain Management の授業では3~4名のグループで40分のプレゼンテーションと20

分ほどの Q&A セッションをするという機会がありました。個人的に今までやってきたどのプレゼンテーションよりもハードルの高いもので苦戦を強いられました。しかし Human Resource Management の授業同様、思ったことを積極的に口にするようにしました。黙っていて意見がないと思われるよりも間違えても良いから発言をすることが北米では重要視され、高く評価されます。よって、プレゼンテーションの準備段階から本番、Q&A セッションまで相手に同調するだけでなく、反対の意見を述べることも意識しました。加えて、1年通してですが、カナダの大学には Reading Week というものが存在します。これは学期の真ん中あたりに取られる1週間ほどの休みの期間のことで私たち学生はこの期間中に前半の授業の復習や休み期間明けの試験に備えます。簡潔にいうと、授業に遅れてしまった学生が追いつくための1週間です。日本だけでなくこの文化がない国や地域は多いと思うのですが、取り入れても良いと思いました。私には初めての経験だったので面白かったですし、個人的にはリフレッシュする良い時間になりました。



←ELP の教室

生活面について

私は前期はホームステイ、後期は学生寮で生活をしました。ウクライナ系のホストマザー、ジャマイカ系のホストファザー、8歳のホストブラザーの家庭にいられてもらい沢山の貴重な経験をすることができました。多国籍な家庭だったので両国の郷土料理を食べさせてもらったり、犬と猫がいたので放課後にはドッグランに連れて行ってもらったり、アッシナボインパークという公園の動物園やハロウィンの時期には移動遊園地にも連れて行ってもらい、本当の家族のように扱ってもらいました。特にホストブラザーとは本当の兄弟のようにカードゲームやサッカーをして遊びました。印象的だったのは、ホストマザーに勉強を教えてもらったことです。私が留学していた時に同じウィニペグ大学を卒業したホストマザーで彼女もビジネスを専攻していたので試験前には大事なポイントを教えてもらっていました。ハロウィーンやサンクスギビングは一生の思い出です。ハロウィーンではホストブラザーと一緒に近所の家を周りお菓子を沢山もらいました。サンクスギビングでは大きな七面鳥を食べデザートにはキャロットケーキを食べました。このような文化があることは知っていましたが、実際に体験するととても楽しく、またカナダに行ったときには絶対経験したい行事でした。

後期はオンキャンパスの寮で生活しました。大学から徒歩で5分くらいの場所に位置する6階建ての寮で、カナダやアメリカはもちろんアジアやヨーロッパの人も住んでいて国際色豊かな生活を送ることができました。寮の3階と5階にラウンジと呼ばれる共

同スペースがあり、週末の夜には友達とそこに集まりゲームをしたり、映画を見たりしました。自分の部屋に籠るのではなく積極的に外に出て友達と会話をすることで自ずと英語力も上がり、さらには新しい友達ができることもありました。他にもみんなでゲームセンターに行ったり、学校のスポーツチームの試合を見に行ったり、ジムに行ったり、ホッケーの試合を見に行ったりと、日本では出来ない体験も沢山しました。



←Winnipeg Jets というホッケーチームの試合

ウィニペグには交通手段がバスしかありません。近くのモールに行くときも、外食をしに行くときも徒歩で行ける範囲以外はバスで移動します。また冬は-30度まで冷え込むのでバスが欠かせません。ペゴカードという日本でいうスイカやパスモのようなカードを1学期分の料金で購入することでその期間内は乗り放題というシステムでした。週末には大学からそこまで遠くないポロパークというモールにバスで行って買い物したり、食事をしたり、映画を見たりしました。先ほども述べたように、ウィニペグはカナダの中でも特に冬場が厳しい土地です。アッシナボインパークという大きな公園では寒くなると

公園の中の川が凍り、そこでアイススケートができるようになります。寒い一方で、天気はとても良いので空気が澄んでいて朝日や夕日が綺麗に見えます。春に近づくにつれて日も伸びるので夜の8時くらいまでは綺麗な夕焼けを見ることができたのを覚えています。



←学生寮 (McFeetors Hall)



←ウィニペグのバス

最後に

海外に渡航、滞在したことのある自分でしたが、英語を学ぶ留学生として海外に行くことができたのは本当に貴重な経験でしたし、毎日が刺激的でした。結果として英語

力はもちろん向上しましたし、文化や背景、考え方など日本にいたら考えることもない概念を知ることができましたし、何より人間として2倍も3倍も成長できました。留学という経験やカナダでできた友達は一生の宝物ですし、生涯忘れることはありません。この場をお借りして、留学前と留学中に支えてくださった国際センターや国際経営学部事務室の皆様、留学を後押ししてくださった先生方や友人、何よりもいつもそばで応援してくれた両親に感謝を述べて、長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金の報告書とさせていただきます。